

おかもと陽子通信

2017年12月 第19号



(12月議会)



—KOMETO—
公明党

守りたい! あなたのいのち、生活を!!

発行) 宗像市議会議員 岡本陽子

自宅 福岡県宗像市自由ヶ丘 7-6-1

TEL/FAX (0940) 25-5344

ホームページ <http://www.okamoto-youko.jp/>

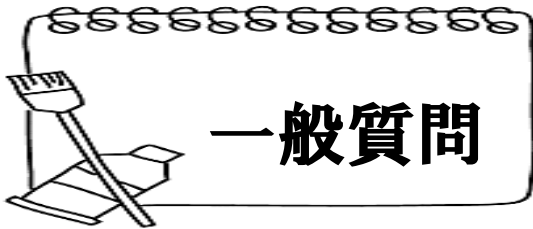
メール taiyoudaisukinayoko@gmail.com



ご意見・ご要望はホームページからも投稿できます。何でもお気軽にご相談下さい。

谷井市長 今議会で、2018年4月市長選の不出馬表明!!

2001年、宗像市助役に就任、前市長の急死を受けて2006年に市長に就任。合併後のまちづくりや世界遺産登録などで一定の成果を上げた3期12年の成果を振り返り、次は「新しい人が新しい感覚で。」と述べた。



一般質問

◆子育てに関する2つの項目について質問しました◆

① 子ども・若者支援センター(仮称)設置目的は

全国で妊娠期から18歳まで切れ目のない子育て支援(子育て版地域包括ケアシステム)の必要性が叫ばれる中、本市においては平成30年より子ども・若者支援センター(仮称)の整備に取り組む。その具体的な内容について質問した。

(問) 正式名称、対象、目的は。

(答) 名称は子ども相談支援センター(子ども支援課)とし、適応指導係、子ども相談係、発達支援係が含まれる。対象は子どもを妊娠した時から18歳までである。主たる設置目的は虐待予防である。

(問) 発達支援センターは、発達障害の早期発見、二次障害の予防のために寄与し、本市が誇る政策の一つである。発達支援係となることでその機能は変わるのか。センター設置目的に発達障害の二次障害予防を加えてもよいのではないか。

(答) 虐待は、子どもの育てにくさという側面が大きい。まず虐待予防という大きな目的に取り組み、その育てにくさの原因が何かを見極めることが発達障害の二次障害予防にもつながると考える。

② 子ども議会の開催を

全国で開催する自治体が増えている子ども会議。(平成27年197市222件)平成29年11月には新宮町でも中学生にも議会のしくみや町政に関心をもってもらおうと開催された。選挙権取得が18歳以上となり、若い世代が政治に関心を持ち、自分たちの意見がどう市政に反映されるのか、自分たちがどうかかわっていくか意識を高めるために小学校高学年から中学生による子ども議会の開催を試みてはどうか。行橋市の子ども議会の様子も紹介し質問した。

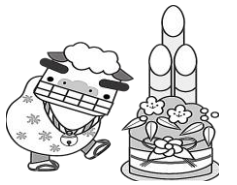
(問) 主権者教育は、投票行動を教えるものではない。子どものうちに地域に関心を持ち、自分たちの意見が行政でどのように反映されるのかを実体験できることが必要。9月議会においても子ども議会について質問し、市は投票などの実体験の重要性、各学校の意見を聞きつつカリキュラムの位置づけを探っていくことであつた。学校毎に主権者教育の方法は異なる。その後の検討内容は。

(答) 学校カリキュラムにおいて主権者教育の時間は平均1時間で、選管による模擬選挙や生徒会役員選挙での模擬選挙が行われている。この評価を行い、子ども議会の開催の有無の必要性を検討している段階である。行政として主権者教育にどうかかわっていくかも検討したい。





議会トピックス



(大島に義務教育学校を設置するために必要となる関係例規の整備) 賛成多数(賛成16 反対3)で可決
 市からは、大島の環境や特色に合わせたカリキュラムが組める。教員が小学校、中学校という区別なく関われる大島の子どもを育てるなど小中一貫教育をベースにしてその内容を充実させる等のメリットが述べられた。総務常任委員会においては、島民全体に丁寧な説明を果たす。保護者・地域の意見を聞く場を設けて、学校運営に反映させることなどの付帯決議案が提案され賛成多数で可決。

機構改革

都市戦略室の廃止をはじめ本市の組織機構の見直しに伴い
 10部1室43課75係から
 10部44課79係となる。

一般会計補正予算増額の主なもの

市税	4,700万円	軽自動車税保有台数の増ほか
ふるさと寄付金	3億円	目標額を10億から13億に変更
障害者福祉費	1億2,456万2千円	障害者サービス事業の増に伴うサービス増
漁港整備事業費	5,500万円	漁港グラウンド復旧工事等
小学校施設改修事業費	2,300万円	東郷小学校2学級分プレハブ建設
世界遺産保存管理事業費	1,500万円	海の道むなかた館大型スクリーン設置
市民スポーツ活動推進事業費	1,766万5千円	市民体育館と宗寿園を結ぶスロープ設置

人事院勧告による職員給与の改定 賛成多数(賛成18 反対1)で可決 影響額は3役分15万円、議員分54万円、職員分2,536万円程度
 若年層に重点をおいた平均0.2%の給料表の引き上げを行う。任期付職員、再任用職員、臨時的任用職員についても適用。

2017年おかもとの活動から

緩和ケアの対象拡大決定

厚労省へ17999筆の署名提出

「ホスピスがすべての人に開かれたものに」の署名17,999筆を宗像ネットワーク代表、隈崎行輝氏、にのさかクリニック院長、二ノ坂保喜氏とともに厚労省に届けました。この活動によってこれまで緩和ケアにおいて対象となっていたがん、エイズから対象を広げるためのワーキングチームが結成され、まずは循環器疾患へ対象を拡大するための会議が開かれました。まだまだ課題は残りますが・・・

まずは一歩前進です。

(厚労省にて署名提出 11月16日)



過去まで流されてしまった

北部九州豪雨災害、朝倉へ支援

7月16日、避難所聞き取り調査、被災家屋への床下泥出し作業のボランティアに参加。テレビ報道からは伝わってこない臭気、粉塵。被災間もない被災地の状況に言葉を失いました。避難所では冷房設備設置されていましたが、家が全壊、流された方の多くが避難されており、「過去まで流されてしまった。」という声が・・・。水を含んだ床下の泥の重さ。支援格差もあり、支援できない地域では高齢者の方々がこの泥を運ぶ作業をされている現状で熱中症で倒れる人が続出しました。復興のためにはこうした被災地の方々のことを周囲の人たちが忘れないことが大切だと思います。

被災者宅の泥出し作業 7月16日



出会い

語り



宗像市での取り組み



今年も多くの方との出会いがありました。花いっぱい運動、自由の森遊歩道を守る会、地域、学校行事。地域の方々の支える力と経験、智慧から学ぶことが沢山ありました。見守り隊や交通安全協会を実施する朝の交通当番では、「おはようございます。」と元気いっぱいに声をかけてくれる子ども達が増えました。市民相談は月平均10件、多い時は2日に1回、月16回の相談をいただくこともありました。この中から健康福祉を中心とした政策を実現。2018年も市民目線で走り、語りに語ります。



自由ヶ丘でのボランティア活動の様子